

中学校〈総合的な学習の時間〉実践報告

「国際交流の日」

交流・体験授業を通して世界の現状を理解し、
学習したことを伝えよう

町田市立真光寺中学校

主幹教諭 飯田由加里



はじめに

本校では、1988年に国際理解教育推進校としての研究を始めて以来「国際交流の日」という学校行事などを通して、一貫して20年余り国際理解教育に力を注いできた。

今年度も「総合的な学習の時間」の学校のテーマを「共に生きる」として、7月2日(土)に「国際交流の日」を開催した。その中で、各教室にゲストティーチャーを招き交流・体験の視点を大事にとらえ授業の展開を図った。3年生①グループの教室には、日本ユニセフ協会の方を招き「世界の子どもは今」というテーマで授業を行った。

今年度も「総合的な学習の時間」の学校のテーマを「共に生きる」として、7月2日(土)に「国際交流の日」を開催した。その中で、各教室にゲストティーチャーを招き交流・体験の視点を大事にとらえ授業の展開を図った。3年生①グループの教室には、日本ユニセフ協会の方を招き「世界の子どもは今」というテーマで授業を行った。

1. 活動のねらい

- 1) 「国際交流の日」を通して、他国の文化・伝統・習慣などを学び、お互いに尊重し、認め合う態度を育てる。
- 2) 他国の文化や伝統を学ぶ中で、相手と気持ちを通い合わせることでできるコミュニケーション能力を育てる。

2. 使用した教材

- 世界地図 ●フォトランゲージ用の写真
- ビデオ「ユニセフと地球のともだち」
- ネパールの水がめ ●マラリア予防の蚊帳

3. 学習活動の流れ

①全体会

(9:00-10:30)

- ①一日の学習の流れの説明を聞く。②世界の実情を知る講演とビデオの視聴。
- ③各学年の代表による事前学習の発表。

②学年ごとの学習

(10:45-12:35)

- ①自分たちの日常の生活を振り返る。
- ②世界の子どもたちの生活の様子や問題を考える。
- ③世界の子どもたちの現状や問題を整理する。
- ④ビデオ「ユニセフと地球のともだち」を視聴する。
 - ・世界の子どもの問題の背景や実情についての説明を聞く。
 - ・ネパールの水がめを運び、その重さや運ぶことの大変さを実感し、労働の苦勞や学校に通えない現状を知る。
 - ・マラリア予防の蚊帳を体験し、マラリアを防ぐための努力・工夫について、ユニセフがしていることを学ぶ。
- ⑤世界の子どもの問題とユニセフの活動をまとめ、「子どもの権利条約」について考える。



ビデオ「ユニセフと地球のともだち」を視聴



ネパールの水がめ運び体験

③全体での報告会

(13:30-15:00)

- ①邦楽部による演奏 ②各学年の報告

4. 生徒の感想

- 今まで、カンボジアのことを何回か学んできたけれど、詳しい人数まで知ると、また違った見方ができた。世界の子どもの約一億人が学校に行けなくて、一億二千万人が仕事をさせられていると聞き、驚いた。私たちは、不自由のない生活ができることに感謝したいと思った。
- 講師の先生が最後に、「かわいそうだと思うかもしれないけど、カンボジアの子どもたちは、素敵な笑顔をしているし、夢も持っている。」と言っていたことは、素敵だと思った。

- 同じ人間で、同じ地球に住んでいるのに、日本と全然違ったり、すごく貧しいのはおかしいと思う。早く世の中が平等になって、みんなが勉強できるようになって欲しいと思った。
- 貧しい国では、池やみずたまりの汚れた水を飲んで、多くの子どもたちが病気になる聞いた。5才の誕生日を迎えられない子も多いと聞いた。幼い子どもたちが、大人より先に亡くなってしまふことは悲しいことだと思う。

5. 成果と課題

本校で毎年行っている「国際交流の日」の授業を通じ、世界に目を向け、実際の世界の子どもの現状について学び、生徒たちが、自分たちにできることは何かを考えるきっかけになったこ

とは大きな成果である。また、本校が継続してきた「国際交流の日」の積み重ねを今後も大事にして、さらなる国際社会への関心を広げ、地球市民の育成を向上させていきたいと思う。